



## 「舟を編む」

2012年の本屋大賞を受賞したこの作品は、公共図書館では未だ予約者

100人を超え、更に映画公開が予定されているベストセラー小説です。

辞書編纂をテーマとしていますが、とても読みやすく面白いので、この世界にどんどん惹きこまれています。また、登場人物達の辞書や言葉に対する愛情や情熱が、言葉の大切さを教えてくれ、現実の辞書編纂にも多くの人が関わっているのだと改めて気づかせてくれました。そして読み終えた時、彼らの編む『大渡海』のような辞書を見つけてたいという衝動に駆られ、本屋さんへ走りました。

これだけ心を動かしてくれた本を図書館にじっとさせておくのはもったいない！あなたの目で、『大渡海』が無事に船出を迎えるのかを見届けてください。

(図書館司書・國田 純子)



◎ 舟を編む  
(三浦しをん著/光文社)

### ● Information

#### ● ライブラリーツアーに参加しよう !!

ライブラリーツアーとは、図書館をより有効に利用していただけるように図書館機能を紹介するツアーです。春と秋に開催し、毎年200名以上が参加しています。

詳しい開催時期は図書館掲示板、図書館のHPでお知らせいたしますのでチェックしてみてください。図書館は皆さんの充実した学生生活を応援します！

**時 期** 5~6月と11月の毎週水曜日(3・4)限

**対 象** 全学年(ゼミ単位でも個人単位でも申し込みができます)

**内 容** 図書館での調査の説明／レポート・論文の書き方／  
館内案内 など(約90分)

★★★ 詳しいことはカウンターまでお尋ねください ★★★

#### ● 震災に備えましょう !!

あの3.11東北地方太平洋沖地震から2年がたちました。東海地震もいつかはあるのではなく、必ず来るという認識で備えましょう。図書館では、震災の記憶を忘れないために3.11東北地方太平洋沖地震関係の図書と映像資料を購入いたしましたので見てください。その前に図書館で地震があったら次のように行動しましょう！

- ①地震が発生した時は、書架から離れてください!
- ②閲覧机の下に隠れましょう!
- ③職員の指示に従ってください!



図書館  
2F  
2F避難口：  
2Fカウンター  
後ろ



図書館  
1F  
1F避難口：  
図書館事務室  
事務用扉

### 本学関係・寄贈図書 平成24年4月～ 25年1月末まで受入分

No.	寄 贈 者	書 名	著 者 名	出 版 者 (発 行 年)
1	戸田芳雄教授	学校・子どもの安全と危機管理	戸田芳雄 編著	少年写真新聞社(2012年)
2	掛水通子教授	日本における女子体育教師史研究 平成二十三年度 博士論文	掛水通子 著	掛水通子(2012年)
3	阿江美恵子教授	現場で活きるスポーツ心理学	石井源信、楠本恭久、阿江美恵子編	杏林書院(2012年)

## 新たな飛躍へ

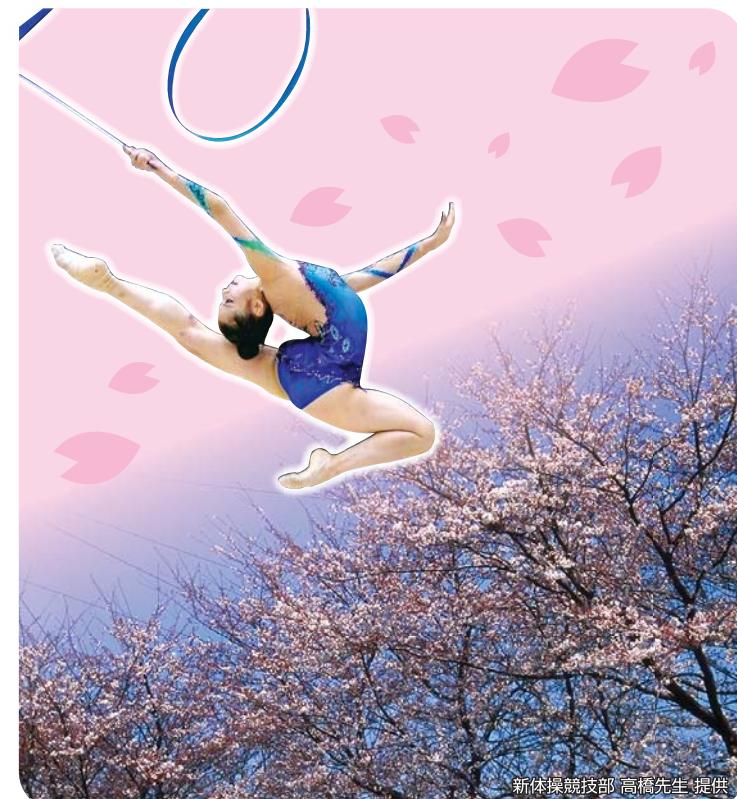
♪ 春の日 花と輝く麗しき姿の ...

♪ 若き日の頃は清らに煩いの影なく ...

これはアイルランド民謡 Believe Me (作詞 Thomas Moore 訳詞 堀内敬三) の一部。

青春時代は高い志と、夢と希望に満ち、自己の向上と更なる飛躍に努力する。

図書館は書物等により皆さんの期待に応えるために待っています。



# 新たな飛躍へ

## おすすめの1冊

### 「生きる。」



◎ 生きる。  
(瀬戸内寂聴・梅原 猛著／角川学芸出版)

3.11の大災害は我が国に予想もできないほどの大きな衝撃を与えた。それは目に見えない大変化を私たち日本人の心にもたらした。豊かな経済成長を可能にしてきた科学技術の進展に疑問が生まれ、それまで固く信じて生きてきたさまざまな幻想が一挙に崩れ去ったのである。いま私たちは何を支えに生きていかなければならぬのか。デカルトの心身二元論に基づく近代文明が取り残してきた“どう生きるべきか”が問われている。現代を代表する二人の思想家が熱く語り、日本人の心の深層に迫る。これからを生きる若い人たちに読んでもらいたい一冊である。

(器械運動研究室・塩野 克己)

### 「緑の国へ」



◎ 緑の国へ  
(稲本 正著／オルタナグリーン選書)

2011年3月11日、未曾有の大災害に見舞われた日本。壊滅的な被害を受けた我々日本人につきつけられたのが、日本の再生問題である。筆者は何年も前に原子力の研究を捨て太陽熱の研究を始めて木の世界に飛び込んだ。人間の生きる基本は美しい空気、きれいな水、そして自然との共存、との考えから森の大切さを訴える。木という再生可能な資源で「持続可能な循環モデルを世界に発信できる」と日本の新たな再生のシナリオを描く。データに基づき多方面から検証して人間に与えられた課題を示しているが、共感することばかりである。今、全日本人がこの課題を正しく学び真剣に取り組めば、生まれ変わった日本を世界に示すことができるのではないだろうかと思った。今回の事故で「原発は人類の叡智がコントロールできる範囲を超えていた」ということを身を持って体験した我々は、率先して脱原発に向かうべきである。人間の手におえないものを作ってはならない、とつくづく思う。未来ある若い学生たちにぜひ読んで考えてほしい一冊である。

## おすすめの1冊

## おすすめの1冊

### 「夜回り先生」



◎ 夜回り先生  
(水谷 修著／小学館)

教師という立場でどこまで生徒に向き合い、その人生に入り込めるのか。この本には「生死」の狭間で怯えながらも必死にもがいて光を探そうとしている子供たちに人生を賭けて対峙する先生の実話が綴られています。読み進めると生きること、生きていることの尊さを改めて感じると共に、様々な人生のあり様を深く考えることができます。一教師としての「夜回り先生」の考え方や行動が完全に正しいとは思いませんが、将来、教壇に立とうとする学生は、社会のどこかにあるこのような現実を知っておく必要があると思います。

(陸上競技研究室・佐々木 大志)

## 学生のおすすめ

### 「365日のベッドタイム・ストーリー」



◎ 365日のベッドタイム・ストーリー  
(クリスティーヌ・アリソン著／高橋 啓訳／飛鳥新社)

この本は、世界の童話・神話・おとぎ話から現代のちょっと変わったお話まで、載っている本です。イソップやアンデルセンの名作童話など365本のお話がつまっています。また、アジア、アフリカ、アメリカなど世界各地に伝わる不思議なお話がもりだくさんです。1日1作品寝る前に読んでいけば1年楽しめます。1日の終わりに毎日少しづつ読むとリラックスもできると思います。ぜひ4月から1年間かけて楽しんでいただきたいです。

(大学3年・高橋 亜衣佳)

## おすすめの1冊

### 「図書館戦争」



◎ 図書館戦争  
(有川 浩著／アスキー・メディアワークス)

## おすすめの1冊

## 学生のおすすめ

### 「99.9%は仮説」



◎ 99.9%は仮説  
(竹内 薫著／光文社)

この本は、“科学”についてたくさんの例が書かれています。

私は科学がニガテなので、読むのは難しいかな?と思ったのですが、この本は、一見、理論的・絶対的である“科学”は、ただの仮説にすぎないのだ、ということを通して、思いこみや先入観、常識などにとらわれずに、物事を相対的に考えられるようになろう、と言いました。

実際この本を読んで、自分はなんて頭が固いんだ!と何度も気付かされました(笑)。そして、いろんなことをあるひとつの方針からだけでなく、違う面から見ることができます。皆さんもこの本を読んで頭をグニャグニヤにしてみませんか?

(大学3年・新保 和泉)

2006年に出版されるやいなや大ヒットした小説が、岡田准一・榮倉奈々主演で実写映画化します!舞台はメディア良化法により自由に本を読めなくなった世界。主人公・笠原郁(かさらいく)はかつて自分を助けてくれた図書館員にあこがれて、図書館を守る図書隊で働きはじめる。が、やる気が空回りして失敗ばかり。鬼教官・堂上篤に怒られながらも、少しづつ図書隊員として成長していく郁に元気がもらえます。私も働き始めたころの失敗を思い出して思わず赤面…。映画の公開は4月27日です。

(図書館司書・小田中 樂)